

第1回～第4回までの「イクメンの星」に選定された方々

(別紙2)

選定対象期間 平成22年6月17日～10月14日

選定対象者数 310人

選定回	ニックネーム	氏名	お住まい	職業	年齢	育休・育児体験談
1 第1回	こーめ	北橋 惇 (きたはし じゅん)	大阪府	高齢者介護デイサービス施設職員	28歳	<p>わたしは障害者で、高齢者介護施設の経理事務をしております。家庭は共働きで、もちろん、妻も働かなければやっていけない経済状況です。妻も41になり、「女性として生まれたからには、子どもを産みたい」との希望で、わたし自身も子ども好きであることもあり、一大決心をして子どもを作りました。</p> <p>無事、男児が産まれたのですが、育児も、経済状況も大変であり、「どうにもならない」と思っていたところ、職場の所長より、「最低限の出勤だけでいい、育休を取りなさい」との言葉を頂きました。この言葉は本当にありがたく、それ以降、わたしは子どもの夜泣きにも、昼夜逆転生活を送ることができ、毎日毎日、息子の笑顔を作るために、息子と向き合うことが出来ています。</p> <p>息子の可愛い笑顔が見れ、男性が育児をすること、認められることの大きさ、それによる家庭の幸せを、今、心から実感しております。</p> <p>共働きが多い時代、この不況の折り、夫婦において夫の方が給料が低くても、男性の育児休暇というものは、なかなかまだ認知、理解されていないものです。</p> <p>けれども、新しい社会作りの中で、さまざまな形が、今後生まれて来てもよいのではないかと思います。</p> <p>育児をする幸せ。男性としてそれを感じられることに、今、心からの喜びを感じています。</p>
2 第1回	五十嵐 豊	五十嵐 豊 (いがらし ゆたか)	北海道	建築会社勤務	35歳	<p>第1子の誕生を機に、自営業の妻に代わって子育てに手を挙げました。社内初となる育児休業は取得も大変、しかも7ヶ月の育休が終わる頃には戻る部署が無くなってしまい、仕方なく専業主夫へ。</p> <p>初めは孤独な子育て、密室育児だったけれど、次第に共感してくれる人たちが増え、子どもももうひとり増え、子育て広場や地域の子育て情報をまとめる組織の立ち上げ、講演会の企画、新聞でのイクメンコラムの連載、ブログでの情報発信、今年は地域のパパスイッチ事業など、地域の子育て環境の向上に取り組んでいます。</p> <p>僕の子育ての力になってくれた多くのママ友、地域の人たち、行政の人たち。自分自身が助けてもらえたように、今度はこれから子育てするみんなを助けたい。子育ては仲間がいるともっと楽しい！</p> <p>子育てに必要なことは、家族へのいっぱい愛情、そして共感するチカラ。家族といっぱい一緒に過ごせる今の時間を大切に、子どもを育てることは自分を育てること…それを実感しながら日々子育てに向かい合っています。</p> <p>兼業主夫田舎暮らし@北海道 http://tokachi.cocolog-nifty.com/blog/</p>

3	第1回	西村 貴志	西村 貴志 (にしむら たかし)	滋賀県	会社員	36歳	<p>2人目の妊娠時、妻が切迫早産で3ヶ月強の入院になりました。 そのころ長男は幼稚園に通っていたため、長男の幼稚園生活を支えるところから育児奮闘？が始まりました。</p> <p>毎日のお弁当作り、幼稚園の送迎、園に持っていくものの準備など、いろんなことを妻にまかせっきりだったんだと痛感しました。</p> <p>次男が生まれたのち、1ヶ月間の『育児休暇』を取得しました。</p> <p>長期の入院生活を終えたばかりの妻には、生まれたばかりの赤ちゃんの育児は大変な負担をかけることになると思い、少しでもその負担を軽減したかったので、育児休暇を取ることを決意いたしました。</p> <p>入院中からの急な出産でしたから、予定よりも1ヶ月も早く育児休暇に入ることになり、会社のメンバーにも大きな迷惑をかけることになってしまいました。でも、周りの人たちは快く育児休暇取得を認めてくれました。</p> <p>本当に恵まれた職場環境だったと思います。</p> <p>1ヶ月間の育児休暇中、夜泣きでの1、2時間ごとの寝起き、おむつ交換、長男の幼稚園、それに家事と大忙しの1ヶ月間でした。(一番大変だったのは3食の料理かな。普段料理をしなかった分、苦労しました)</p> <p>大変な1ヶ月間でしたが、子供たちの成長を間近で見られ、また楽しくもある、本当に貴重な1ヶ月だったと思います。もし、次、3人目に恵まれることがあれば、またぜひ育児休暇を取得したいと思っています。</p> <p>育休を取得しようか悩んでおられる方、あるいはこれからお子さんが生まれる方、ぜひ育休を取得されることをおすすめいたします。</p> <p>普段とは違う慣れないことをするので、大変なこともあります、それ以上に得られるも、感じられるものも多くあると思います。</p> <p>お互いイクメンとして頑張っていきましょう！！</p>
4	第1回	まさやん	小谷 雅彦 (こたに まさひこ)	岡山県	会社経営	37歳	<p>子供が生まれたころはとても忙しく毎日仕事で午前様という日々を送っていました。</p> <p>子供が寝た後で帰宅。子供が起きる前に出社という生活だったので、子供達が自分の手作りの遊具で遊ぶ姿を思い浮かべながら、砂場、ダンボールの滑り台、ダンボールのお家を作ったり、週末には子供達と一緒に秘密基地やアスレチックジムなどを作りました。(ブログでも紹介しています。 http://96550625.at.webry.info/)</p> <p>最近父親の子育てサークル「チーム・パパざかり」を結成したり、父と子で思いっきり遊ぶ講座「ちちとくらぶ」の講師をし、自分だけでなく周囲のお父さんも巻きこんでイクメンになることを目標に子育て奮闘中です。</p>

5	第2回	たまパパ	野村 亮太 (のむら りょうた)	神奈川県	会社員	31歳	<p>昨年の4月に妊娠が発覚し、上司に私の育休について相談したところ、お祝いの言葉とともに快諾をもらいました。ただ、それから休みに入るまでの1年3カ月間、「育休をとる必要があるのか」について何度も悩み、戸惑いました。</p> <p>私の育休について、多くの方は応援してくれましたが、反発の声もありました。意外だったのは、反発の声は普段から親身になってくれる人からが多いこと。その分、心にも重く響きました。そのひとつ。「これからがキャリアの正念場。この時期のブランクは、今後に影響するだろうし、育休は本当に家族のためになるのか？」</p> <p>この言葉は、その後何度も反芻することになります。実際、育休開始に近づくほど仕事が好きになり、休みたくない気持ちが湧きあがってしまい、気持ちの整理に苦労しました。</p> <p>しかし、これは贅沢な悩み。私には休まない選択もあるので。女性は、出産時に必ず仕事を休まなければならない。妻の妊娠時、私はお腹が大きくなるのを見て喜ぶばかりで、そんな苦しみについて考えもしなかった。実際、彼女は悩んでいたのに。妻の苦しみは私も受け入れなければ、と覚悟を決めました。</p> <p>そして迎えた育休。妻は職場復帰したため、私と娘、二人っきり。今までの生活の率直な感想は「育児は疲れるけど、こんなにも楽しいのか！」。</p> <p>育児は予定通り進まないことばかりで、心身の消耗は予想以上。しかし、これを支えるのは、成長という心躍る発見です。ただ、この感動は心身に余裕があるから感じられるもの。余裕がないと、育児は非常に辛いものであり、急速に追い込まれることも分かりました。妻に助けられる度に、感謝と無理解だった反省、周囲のサポートの重要性を感じます。</p> <p>すでに多くの発見に恵まれ、育休は仕事を休む価値のあるものだとは確信しています。男の育休がもっと広がり、経験が社会で共有されることを切に願います。私は残りの4か月、頑張ります！</p>
6	第3回	優パパ		東京都	会社員	41歳	<p>2007年秋、子供が1歳になり妻が復職。夫婦ともにサービス関係の仕事に従事しており、休日・出社の時間等が不規則というなかで、育児・家事全般について夫婦で分業する生活がスタートしました。</p> <p>仕事柄、家を空けることも多い妻に代わって食事の支度をするこもしばしば…。簡単かつ子供が喜んで食べてくれる離乳食づくり、仕事前後の送り迎え、就寝前の絵本読みなど、大変なことも多かった（現在も継続中）けれど、私の両親・妻のお母さんの協力もあり、保育園に入れたい状況を何とか乗り切ってきました。</p> <p>育児をするなかで痛感したことが、これまで自由に使えていた時間が大きく制約されるということ。入社以来、飲み会の誘いを断ることは稀でしたが、妻の復職後は参加機会も激減。今考えると、私の勤務先にも女性従業員が数多く働いており、育児関連諸制度の利用者も数多くいますが、「育児の主体的な担い手のみなさんが、当たり前のように開催される日本的な夜の会合をどのような想いで見ていたのかな？」などと考えると複雑な心境になります。今も多少後ろ髪を引かれますが、スケジュールが合わないときは仕方がないと割り切り、できるだけ早く子供を迎えに行くことができるようにと頑張る毎日です。</p> <p>こんな生活の副産物として、時間の使い方が上手くなりました。もともと計画的に時間を使うことが苦手でしたが、子供の就寝後に読書や晩酌の時間を確保、社会人大学院通学時は、早朝に起床し、洗濯機を回しながら課題に取り組むなどの進歩がみられました。</p> <p>子供に寂しい想いをさせてしまうときもありますが、父親として関わるときはしっかりと関わりながら、子供との時間が一般的なお母さんよりも少なく、寂しく感じながらも前向きに仕事に取り組んでいる妻をサポートし、もちろん自身の仕事も子育てを理由におろそかになることがないよう、子供とともに成長できれば良いな～と考えています。</p>

7	第3回	星野就一	星野 就一 (ほしの しゅういち)	神奈川県	会社役員	41歳	<p>2007年10月、双子の男の子が誕生した。就太は、生まれる前に肺に便が入り、自発呼吸ができず、即NICUに入った。</p> <p>生まれたときは2000g。優太は、2200gで、元気でよかった。</p> <p>就太に母乳を届けるために、1か月間、朝と夕方に病院へ通った。子どもの命のためと思うとなんでもできた。</p> <p>このときから、仕事より子どもが大切だと思い、収入は減るが週3日の勤務とした。</p> <p>子どもの成長に合わせて、働くスタイルを自分で選んでいこうと決心した。</p> <p>二人の息子たちは、スクスク育っていった。お父さんとしての喜びは、初の寝返りが、朝起きたときに優太がゴロンってできたとき。そして、1歳1か月たったときに、夕飯の後に就太が、パッと立ち上がり、家族全員の歓声があがった。優太も負けじと立ち上がった。このときの一瞬は、かけがえない喜びだった。写真の連続撮影の嵐！なかなかお父さんとしては味わえない。</p> <p>1歳半で保育園に預けることができたが、初めは大泣きする子どもたちを背にして仕事へ行くことが苦しかった。しかし、もうすぐ3歳になる息子たちは、保育園という社会に出てなんでも吸収していることがうれしい。</p> <p>お父さんは、朝食の準備と、保育園の送り迎えが日課である。子供たちへの食事、しつけ、ぐずったときの対処に頭を悩ませている毎日が続いているが、やっぱり妻が私の先生である。</p>
8	第4回	新田龍キャリア教育プロデューサー	新田 龍 (にした りょう)	東京都	会社経営、 大学講師、 ビジネス書作家	34歳	<p>私が「ベンチャー企業でハードワーク」のサラリーマンを辞めて、独立することを選んだ大きな理由は「妻のキャリアを応援して、育児もしたい！」という強い思いでした。</p> <p>子供は欲しかったのですが、共働きでお互いハードワーク。妻は仕事で実績を残して、出産と育児でキャリアを中断させてしまうのは本意だし、世の中にとっても損失だと考えたのです。</p> <p>そこで、私自身が独立して時間の自由をつくり、家事、育児にも関わりながら妻のキャリアをサポートすることを決意。2005年に独立し、3年後女兒に恵まれました。</p> <p>現在は、朝8時～10時、そして夜18時～21時は「家事と育児の時間」として、再優先でブロックしてから仕事の予定を入れています。託児所の送り迎えや夕食の準備なども妻と分担。仕事にまわす絶対的な時間は減りましたが、その前提で予定を組むことでかえって効率的に時間を使っていますし、「限られた時間を大事に使おう」という意識になりますね。</p> <p>ここまで育児に関わらなければ、得られなかったことは本当に多いです。</p> <p>「昨日までできなかったことが、今日できるようになった」と成長に気づける喜び。「自分たちの態度や口グセを真似している！」と気づいたときの反省。「〇〇ってなに？」「〇〇するのはなぜ？」と聞かれ、説明するときの自身の学び…</p> <p>常に自分自身も学ばされ、成長していることを強く感じます。そして、これまで自分自身を育ててくれた家族や、周囲のあらゆるものにも深く感謝したい気持ちになります。</p> <p>どれだけ本を読んだり、体験談を見聞きしたりしても、実体験に及ぶものではありません。</p> <p>ぜひ育児の素晴らしさを多くの人に体感頂き、子育てしやすい社会にしていきたいですね。</p>